

2026年2月6日

埼玉・群馬健康と医療を支える未来医療人の育成事業
事業代表者 竹内 勤 殿

令和7年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会
評価報告書

2026年2月6日に令和7年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会を開催し、事業の評価を
しましたので、報告します。

I. 教育プログラムの拡充・開発

評価：S

付記事項

- ・前回評価について、可能な限り令和7年度の計画に反映させ、事業の拡充に取り組まれていた。令和6年度までに当初の計画の通りすべての正規の教育プログラムが開講されており、工程表に示された目標履修人数を超えていた。
- ・プログラム1は、在宅医療/臨床入門早期体験実習(1年生)は受け入れ実習施設も増え、指導医からも肯定的な評価をうけるなど、低学年で学ぶカリキュラムとして良く機能している。新たに開始された「話し合いを深める力」の教育プログラムは、多職種連携に欠かせない優れた内容になっており、高く評価できる。1年生から6年生まで経時的に講義や演習が配置されており、低学年の高いモチベーションの維持に役立つと考えられる。埼玉医大のこの取り組みに関する学生アンケートは、アウトカム指標の1つになり得ると考えられ、学年ごとの回答の差異を含め、年次推移を解釈し、今後のプログラム運営に生かすことが望まれる。
- ・プログラム2は、1年生、3年生、4-5年生と複数学年に配置されており、臨床推論、実習のバランスも良く、コンテンツの内容はどれもすばらしく、すべての委員が非常に高く評価していた。感染症の教育プログラムは継続的な改良がおこなわれており、今後の発展が大いに期待できる。今後、一般に公開することになれば、全国の医学部に対して貢献できるものと思われる。
- ・プログラム3は、「秩父を知ろう2025」といった地域住民との交流を主眼としたコンテンツが1年生に設置され、地域理解を深める学びが拡張している点は、すべての委員が高く評価した。また、利根川プログラムが埼玉県の地域枠学生に浸透してきた感がある、地域医療の経験の豊富な自治医科大学との交流ができたことも評価できる、といった意見もみられ、総じて高評価だった。総合診療への関心を高めるプログラムとして進捗がみられている。
- ・プログラム4は、医学科以外も含めた多学部連携の学修機会を提供できており、参加者も増加していることは評価できる。一方で、15コマが1年生だけに設定されており、対象者や内容に応じて、より高学年での開講など、さらに上級生での教育の拡充が期待される。また、履修者の人数と目標数(特に医学科・地域枠)を明確にし、アウトカム指標および評価指標、数値目標と実数などが適切に設定され、わかりやすく提示されることが望ましい。少なくとも実態、目標、評価の指標

(実際の数値を含む)が見えやすい形で提示がなされると、適切な評価につながると思われる。

・プログラム5は、前年度の外部評価や連携推進会議での医療機関からの意見を踏まえ、利根川プログラムについて、両大学ともに対象を地域枠以外の医学科生に広げ、さらに埼玉医大は保健医療学部生にも対象を広げている。コンセプトは大変すばらしく、多くの地域医療機関の協力を得ながら、プログラム運営に尽力されている点は評価でき、さらなる参加者の増加を期待するという意見が多くみられた。一方で、カリキュラムの制限から、これ以上の参加者や実習施設の増加は困難な状況にある。カリキュラムマップには、利根川プログラムと課外実習が6年を通じて存在しているように見えるが、参加者の実態や実数を、数値目標とともにわかりやすく提示し、地域医療への意識の向上にどのように影響したかについて、評価されることが望ましい。地域枠外の学生や、高学年生の参加意欲を高めるための方策について、一層の検討を期待する。

・大学間の教育プログラムの共同開発・共同開講については、両大学で1コマの時間が異なるなど困難な課題があるなかで、参加者数は増え、大学間連携教育として定着が進んでいる点は評価できる。DXを活用しつつ、時には対面で行うことを積み重ねてほしいという意見がみられた。

II. 連携体制の構築と拠点構築のための取り組み

評価：S

付記事項

・教育環境整備については、大きな努力が感じられる。教育コンテンツの活用の幅が、両大学間で一層広がることに期待する。また、11拠点共通のe-learningシステムにも教材を提供する予定とのことであり、大きな貢献につながることが期待される。

・情報発信については、ホームページ、SNS、シンポジウムを通して、学習の様子などがひろく発信されている。中高校生や行政を含め、多方面への啓発がますます拡大することを期待する。

・産婦人科医のなり手が少ないという現状に対して、地域における産婦人科医の育成に、本プログラムの貢献を期待したいという意見があった。

・点検評価体制の構築については、アウトカムと数値目標、実数とその内訳、成果やアウトカム指標を、具体的にわかりやすく示すことが望まれる。とりわけ、中間地点における点検評価は、後半に向けた課題を明確にする意味でも重要であると考えられる。

・事業終了後に向けては、ステークホルダーである埼玉県・群馬県の「地域の総合診療医の育成」というニーズを踏まえて、両大学ともに、総合診療医センター（仮称）の立ち上げについて検討をスタートしていることは評価できる。

・その他、「医師不足地域での地域枠卒業生の勤務実態の改善などさらに取り組むことが必要である。」「地域医療を維持、発展させるために更なる連携強化を期待する。」などの意見があった。

III. 全体を通しての意見

・令和6年度までに開発した正規のプログラム（科目）は順調に開講した。教育の成果を評価し、フィードバックを通して、後半のプログラムをさらに発展させることが期待される。

・改めてアウトカム指標を検討し、教育プログラムの改善に努めることを期待する。

埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会
委員長
自治医科大学 教授
畠山 修司